

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年2月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	469100047
法人名	有限会社 ピースアンドハーモニー
事業所名	グループホーム ローズガーデン
所在地	鹿児島市下荒田二丁目34-15 (電話) 099-213-0033
自己評価作成日	平成29年12月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成30年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年の8月で開設15年となる。節目の年度でもあり今一度原点に立ち返り認知症介護について考えると共に人生の終盤を迎える入居者の方々に、ケア提供者であるスタッフが人としてどの様に関わって行くのか考えていきたい。また、地域や家族の方々、日々ケア提供をさせて頂いているスタッフも認知症について正しく深く理解し、常に向上心を持続して行ける様に定期的に学習やボランティアの参加をして頂いている。常に心掛けて「予防」と「チームケア」については永遠のテーマとし、介護職という仕事に沢山の人が興味を持ち今後の課題でもある働き方改革も考えていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 当ホームは、2ユニットであるが2階ユニットは、「紅バラ」3階ユニットは、「白バラ」と命名されており、1階の菜園には、ローズガーデン由来のバラの花が植えられていて、人々を和ませている。両ユニットともに、男性の利用者が1名ずつ入所されており、平均の要介護度は、「3」、認知症高齢者の日常生活自立度は、「IIa~IV」である。移動も2階は車いす移動が半数を占めるが、3階は、見守りを受けて独歩で歩行される方が圧倒的に多い。また、近隣は、住宅街であるが近くに公園もあり、利用者の散歩コースになっている。天候や利用者の健康状態、体力面を考慮しながら外出を計画的に実践してはいるが、直前の悪天候もあり季節によっては、車窓から景色を眺めたり、受診のついでにドライブを楽しむなど家族に協力をもらいながら外出支援に努めている。
- 母体が医療機関であるため、24時間医療連携体制が整っており、訪問診療や緊急時、夜間の対応がスムーズに図れ利用者や家族の安心感に繋がっている。他科受診などは、家族に協力をもらいながらスタッフが同行し適切な医療が受けられるよう他医療機関との協力体制が図られている。
- 理念は、地域密着を意識し職員が考えたものであり、毎朝、申し送り時に唱和され、サービスを提供する上で常に意識しミーティングなどで振り返りを行い、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らし続ける事をサポートする事を目的とし事業所のスタッフで作った。施設内に掲示したり毎朝の申し送り時に唱和している。	職員は、毎朝申し送り時に理念を唱和し、ミーティングなどで振り返りを行い、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の行事等に参加したり定期的な会議で意見交換を行っている。毎月1・15日にはボランティアとして掃除や入居者との交流をされている。	町内会に加入し、回覧版を通じて情報収集したり、地域の行事に参加し、「地域交流室」として場所を提供している。また、ボランティアや中・高生の体験学習の受け入れ、地域から勉強会の要請があり講師を派遣している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症をより深く正しく理解して欲しいとの思いで、地域の方と一緒に勉強会や各種会合で認知症に関する話しをさせてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果や苦情、事故等も報告し意見や提案を頂く様にしている。入居者やスタッフの現状も報告し施設内の出来事を客観的に判断して頂きアドバイス等も頂いている。	年度初めに、会議の日程スケジュールを配布し、会議前には、案内文書に議題を明記して送付するなど、会議の進行や意見交換などが活発に運ぶよう取り組んでいる。管理者は、家族が参加しやすいよう工夫も検討されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>介護相談員の受入れや介護保険に関する相談等を行い、随時アドバイスを頂く様にしている。</p>	<p>地域包括支援センターの依頼により、認知症サポーター養成講座の講師派遣に協力したり、介護相談員を受け入れサービスの質の向上に活かしている。また、福祉事務所との連携や市担当者との協力関係が築かれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関はオートロックになっているが街中の施設と言う事で利用者や家族は「安心」と理解している。身体拘束は行わない事を基本とし拘束による弊害を勉強会等で繰り返し学び確認している。</p>	<p>身体拘束に関するマニュアルがあり、毎年内部研修会で身体拘束の弊害や具体的な事例を挙げて知識を深める勉強会を重ねている。住環境上、施錠をしなければ安全性が担保できないが、利用者や家族には理解が得られており、基本的には身体拘束はしない方針でケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待について勉強会で繰り返し理解を深める様にしている。虐待に至るスタッフの認知症の理解不足やストレスにならない様に「チームケア」の必要性も伝えている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>実際に制度を利用している方はいないが、勉強会で制度について話している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	具体的な事例や解り易い言葉を用いて説明している。不安や希望等も聞く様になっている。後で「聞いていません」という事が無い様に途中で入院があった時はその都度説明を行う様になっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に「何かありませんか」と伺う様にしている。アンケートや意見箱も設置している。	管理者は、利用者や家族との関係性を重視し、日常生活や家族の面会時になるべくコミュニケーションを取るよう心がけている。また、運営推進会議や行事などの参加時に、意見や要望などが出しやすいよう雰囲気作りに努め出された意見は、ユニット会議で話し合い運営に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や申し送り時に意見や疑問等出してもらい、運営に反映する様にしている。意見が自由に出来る雰囲気作りにも努めている。	管理者は、毎月の会議や朝礼時、業務遂行時などいつでも職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、代表者は、働きやすい職場環境を目指し、研修体系を整備したり、資格取得を勧めるなど個々のスキルアップが職員全体に繋がりサービスの質の向上が図れるよう進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の努力や実績を積極的に把握する様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は研修の意義を理解しており研修等に参加する様に勧めたり自らも参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表者は当施設が市内の連絡会に加入し同業者との交流や情報交換を行う事に理解がありサービスの向上にも寄与している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人のペースでゆっくりと話を聞いている。少しでも本人の不安が軽減するように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の立場で考え、要望も取り入れながら施設での生活がイメージできるようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>情報をもとに、必要な支援を考え、調整を行なっている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人が安心して過ごせる様に家族に近い立場で接する事に努めている。人生の先輩という考えは忘れず職員も学ぶ姿勢を忘れない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、施設での様子をしっかりと伝える。家族の思いも理解しながら共に支援していく事を理解頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人など可能な限り、面会して頂ける様に支援している。外出、外泊も家族の協力を得ながら支援している。	家族や友人など面会者には、居室でゆっくりと歓談していただくよう配慮している。定期的に外出、外泊をされる方や墓参り、外食、理美容院に行かれる方があるなど馴染みの人や場所との関係性が途切れることがないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係を考え、席の工夫、レクリエーションなど考えている。スタッフも間に入り交流し、孤立しない様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて適切な医療、福祉機関を紹介している。終了後の本人や家族の様子にふれ伺う様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中で、本人の希望、思いを傾聴する様に努めている。得た情報は連絡ノートなどでスタッフが共有する。	本人の何気ない言葉や表情、行動から思いを汲み取り、スタッフ全員で情報を共有し、ケア会議で情報交換している。また、家族にも思いを聞き取り希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から聞き取りを行い経過の把握に努めている。プライベートにも配慮する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズム、本人出来る事など考慮し、見極め対応する。疾病については病院との連携を深め、把握する。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来るだけ本人の要望や状況を一番に考え反映できる様にしている。家族、スタッフの意見、要望も取り入れるようにしている。	課題分析し、本人、家族の思い（意向）を明確にした上で、介護計画書に反映させている。毎月、モニタリングを実施し短期目標達成期間や状態変化時など必要に応じて目標やサービス内容の見直しをしており、本人らしい生活に向けた介護計画書を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の出勤者で細かい情報を交換し記録する様にしている。具体的な言葉も記し状況が解りやすく、ケアや介護計画の見直しに活かす様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人, 家族の状況により諸手続きを代行したり, 本人の希望やその時の状態を見て買物や外出等の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安全に暮らせるように、地域の消防署や警察等と連携している。又、民生委員や地域の方を含めて、ボランティアをしてもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が必要に応じて家族にも定期的に疾病について説明している。内容によっては、他専門医を紹介している。	本人や家族が希望するかかりつけ医であり、母体が医療機関であるため24時間医療連携が図れている。月2回訪問診療、必要時は訪問歯科診療、定期的に薬剤師の訪問があり、他科受診は家族に協力をもらいながら適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>担当の看護職員に相談して利用者支援を行っている。又、通院が利用者の負担になる場合は、施設に来てもらう事もある。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には、情報の交換を行い、安心して治療できるように取り組んでいる。退院時にも、状態の確認、報告を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に、重度化した場合や終末期のあり方について説明を行い、方針を共有している。家族、スタッフともに理解している。</p>	<p>契約時に、「状態変化に伴う退所指針の同意書」にて、重度化した場合や看取りについてのホームの方針について説明・同意をいただいているが、昨年12月に管理者が交代し、看護職が配置されたことで、医療連携が強化された。そのため、今後は看取りについても柔軟に取り組んでいく予定である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>勉強会で定期的に訓練を行っている。全スタッフがいつでも見られる様にマニュアルを作成して見える場所に置いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の指導の下に、様々な想定で練習を行っている。訓練内容の見直しや、地域の方々にも協力を得られる様、参加して頂いている。</p>	<p>年2回夜間想定にて避難訓練を実施、地域の協力体制もある。また、地震、風水害を想定して2ヶ月1回自主訓練を実施、推進会議などで消防署からアドバイスを受けるなどしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	上から目線の言葉使いをしない様にスタッフ間で注意し合っている。自分も人から言われて嫌だという事は言わない様に気をつけている	毎年、内部研修会にて人格の尊重やプライバシー保護の必要性について繰り返し学習している。今年度は、9月に研修会を実施し、「言葉の使い方」「相手に対する気遣い」など認識の共有を図った。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定しやすい様に質問の声かけを一つずつしたりと工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に沿えるように要望などを聞くことから取り組んでいる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	化粧品等希望があれば購入をしている。衣類に関しては選べない方はスタッフにて考え行っている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好み等を確認しメニューに等に取り組むようにしている。また配膳下膳に関しては出来る事をして頂いている	ミキサー食の方に食事介助したり、見守りが必要な方も増えてきているが、利用者の嗜好を把握し、美味しく食べてもらえるよう工夫している。また、利用者の能力に応じて手伝いをいただいたり、おやつ作りを一緒にしている。家族との外食や誕生会などの行事食も楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々で食事水分のチェック表があり職員が把握しやすい様になっている。栄養が不足している時はDr、家族に相談し点滴や栄養補助食品で補っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日三回の口腔ケアを行い清潔を保てるようにしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとり排泄時間を把握し失敗等がないよう声かけを行っている。尿意便意が無い方は時間を見て誘導を行っている	排泄チェックにてリズムやパターンを把握し、おむつ交換したりなるべくトイレで排泄ができるよう心がけている。また、食事や適度な運動を取り入れ内服薬に頼ることなく自然な排便ができるよう便秘予防にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルト、牛乳を摂って頂いている。出にくい方にはホットパットや腹部マッサージ及び下剤での調整をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	その日の体調や精神状態によってタイミングをみて入浴日や時間帯を変更し入浴を楽しんで頂いている	冬場は、週2回程度入浴介助しているが、利用者の希望や必要に応じて入浴ができるよう支援している。利用者ごとにタイミングを図り、声かけの工夫やスタッフを変更して個々に応じた入浴ができるよう努め入浴を楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	申し送りにて睡眠時間を伝え朝など居室、ソファにて休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的や副作用などの理解に努めている。服薬変更時は特に気をつけ状態変化等を主治医と看護師に伝えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事やレクで個々にあった物を提供している。必ずお礼を丁寧に伝え次回に繋がる様に心掛けている。また突然落ち着かない方には散歩やドライブに誘い気分転換を図っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を定期的に行っている。出来ない時や遠い場所には計画を立て外出できるようにご家族や地域の方に協力を頂いている	天候や体調を見ながら近所の散歩コースを散策したり、屋上で外気浴したり、受診がてらドライブを楽しんでいる。また、年間行事計画書を作成し、計画的な外出支援に努めているが、天候不良で中止になるなど計画通りいかずドライブに変更するなど対応している。故郷訪問や外泊、外出などは家族に協力をもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金はスタッフが預かっており、希望があれば、いつでも使えるようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の携帯で、定期的に連絡をされている方もいる。必要があれば声かけを行ったり、月に1回施設より家族へ便りを出している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>外へ出たりし、季節感等を感じてもらう様に支援を行い、リビングやローカ等の飾りは、その時の季節に合わせた物にしている。</p>	<p>2階共有スペースでは、熱帯魚やキンカチョウが飼われ、ベランダには、シクラメンの花など季節の花々がプランター栽培されている。和室があり、仏壇やソファが配置され、ベランダには、洗濯物が干してあるなど家庭的な雰囲気である。また、ひな人形が置いてあり壁には、季節を感じさせるレイアウトが施されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間では、ソファで1人になって過ごしたり、気の合う方と話ができるように座席等考え配置している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすい居室になる様に、使い慣れた物や観葉植物等、持って来て頂き1人ひとりに合った居室作りを行っている。	テレビ、ぬいぐるみ、仏壇など使い慣れた馴染みの物を持ち込んで居心地よく過ごせるよう工夫している。昼食後午睡をされたり疲れた時などいつでも居室で横になったり思い思いに過ごせるよう室内は整理整頓され掃除も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごせる様に、手すりが有ったり、トイレには目印を付け分かりやすくしている。1人ひとり出来る事をして頂き、自立した生活が送れる様、支援を行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない